

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 小諸市立南保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 全体的な計画の作成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 ■ 2 全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。 ■ 3 全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。 ■ 4 全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。 ■ 5 全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。 	<p>○南保育園は基本としての保育理念と保育目標を掲げている。これを受け園としての全体的な計画を職員も参加して作成している。全体的な計画は1枚のシートにはなっていないが保育指針の趣旨をとらえている。1枚のシートで俯瞰できる書式とすることの検討を期待する。</p> <p>○子どもの発達過程・地域の状況等を考慮して編成されており、あわせて当園の目標である「やりたいことを自分でできる子ども」「あいさつのできる子ども」「食べることを楽しむ子ども」の実現のため指導計画が作成されている。</p> <p>○年度当初には職員全員で、内容や職員としての課題を確認している。また、年度末には、全体の評価・見直しを実施して次年度の作成に生かしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	○室内の温度や湿度は常に配慮されている。室内にはエアコン、ストーブで快適に過ごせるようになっている。室温設定は壁に適正管理を則す張り紙がある。加湿器のかわりに濡れタオルで湿度を調整している。当日は換気のため窓を少し開けていた。 ○押し入れの角や危なそうなところには段ボールなどで囲っていた。感染予防から遊具のおもちゃについては消毒液で定期的に消毒している。 ○内装は木材をふんだんに取り入れ、玄関は太い丸太柱があって天井も高く広々とした空間になっている。 ○0歳児の部屋は、半分か畳で、押し入れの下半分が本が置かれている。牛乳パックで作ったソファで子供たちが出たり入ったりしており、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ○食事は高さ調整のため牛乳パックの布団があった。睡眠時はカーテンで暗くしていた。 ○手洗い場・トイレは毎日職員が清掃し、トイレのサンダルは毎日園児の降園後浸漬消毒をしている。3歳児から5歳児に対しトイレが1カ所であるが、時間差で使用し混雑を防いでいる。
			■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。			
■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。						
■ 9 内装等には、木材を利用している。						
■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。						
■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。						
■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。						
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	○保育所児童保育要録からは個人差を十分に把握し、尊重している。 ○各部屋では保育士がしっかり聞いて子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように対応していた。 ○発表会前等で気持ちの切り替えがうまくできずうまく表現できない子どもには、無理強いせず好きな遊びで満足するよう子どもの気持ちによりそって対応していた。 ○発表会を間近に控え、劇や合奏の練習を行っていたが、子どもにゆっくり分かりやすい言葉で強制することなく指導していた。
■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。						
■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。						
■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。						
■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。						
■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
A	1	(2)	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	■ 19	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	○室内に順番で並ぶ、靴をそろえることができるように入口の床に足形を描き自然に身につけられるようになっている。
			■ 20		基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。	○子どもが自ら「お早うございます」と挨拶をしてくれ基本的な生活習慣が身につく援助をしている。	
■ 21	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。	○ジャンパーを着る時、できるところまで本人が主体的にできるよう取り組んでいた。					
■ 22	一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	○広い園庭で運動を行う場合は、強制することなく自主的に遊具で遊んでいるが休息については配慮している。					
■ 23	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。	○園庭から部屋に入る際は、手洗いをしっかりしており自然と基本的習慣が身につけるよう働きかけている。					
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	■ 24	子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	○園全体が、子どもたちの「やりたい」保育者の「共に楽しみたい」を取り入れた全天候型保育を行っておりプロジェクト「タイを豊に大きく育てる」とし「〇〇タイ」を援助している。また遊びを通じてクラスを超え異年齢との関係が育まれるよう援助している。戸外の遊びや運動を通じて体力作りを実践している。園庭の滑り台等の豊富な遊具で進んで遊んでいる姿があった。
■ 25	子どもが自発性を発揮できるよう援助している。	○100種以上の昆虫を園とその周辺で見つけて名前を調べたり、写真を撮ったりし、廊下に展示されている。普段から自然に触れあっており「信州やまほいく」の認定を受けることを期待する。					
■ 26	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。	○二歳児が作った紙粘土のクッキーが展示しており、お店屋さんごっこで保育士と子どもがお客さんになったりして遊んでいるようである。					
■ 27	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。	○二歳児クラスでは、トイレの前に順番で並ぶ足形が床に貼ってあり自然と社会的ルールや態度を身につけるよう配慮している。					
■ 28	生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。						
■ 29	子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。						
■ 30	社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。						
■ 31	身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	④		<ul style="list-style-type: none"> ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○園全体が、プロジェクト「タイを豊に大きく育てる」という考えで行動している。子どもと職員も一緒に楽しく遊びタイと発表会を直前に控え劇や合奏等に様々な表現活動を行っている。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○年間指導計画は、一年を四期に分け成長に合わせた計画になっている。個別指導計画は、生活歴などを考慮して計画している。</p> <p>○おんぶしたり、滑り台や砂場遊びなどで、手伝ってもらいながら遊ぶ姿が見られた。</p> <p>○インタビューでは「寄り添ってあげたい」とし、子供の目線で話を聞いていた。</p> <p>○押入れの遊び場、洗濯ネットで作った弾入れ、天井から紐が下がっていて鳴るおもちゃ等で配慮が感じられる。</p> <p>○食べる、睡眠などが指導計画書に記載され必要な保育を行っている。</p> <p>○クラスだよりでお知らせしたり、送迎時に個別に対応している。連絡ノートは毎日書いていない場合があるがドキュメンテーションを更新し活用している。</p>
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分であるとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子ども自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 	<p>○指導計画に記載されている。また個別指導計画でも子どもの気持ちを尊重している。</p> <p>○戸外で自然の変化に気が付いたり、散歩で思い思いに試そうとする気持ちを大切にしている。</p> <p>○保育士も一緒に遊びたいと考えて子どもと一緒に遊べる環境を整えようとしている。</p> <p>○保育指導案で、自我の育ちを予想して援助できるような研修を実施している。</p> <p>○保育士等は子どもと、仲間の一人になりたい（インタビュー）というくらい関わっているとされる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑥		<ul style="list-style-type: none"> ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○いろいろな人と交流ができています。園庭で2歳児とその兄弟の友達と一緒に手をつないで走ったり年間計画で各組の世代間交流を計画実施している。</p> <p>○クラスだよりや、送迎時に保護者と交流している。週一回ドキュメンテーションを更新し個別のコメントで対応している。個人的にノートを作っている保護者にはコメントを返している。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○一人ひとりの子どもが本物そっくりのサポートを持ち、チャレンジしたり経験した都度スタンプが押されている。子どもがチャレンジした証として捉えることができ、自己肯定感につながるこのユニークな取組は、今後取組事例として外部に発信してほしい。</p>
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 	<p>○インクルーシブな環境で保育士が見守り配慮している。</p> <p>○個別指導計画を詳細に作成し計画に基づき保育を行っている。</p> <p>○言語によるコミュニケーションが困難なため、目を離さない事や観察を十分にする事、不穏になる前にその兆候を見逃さずに対応している。</p> <p>○クラスの中でその子らしく、一緒に出来るように配慮している。</p> <p>○保護者には現場で説明を行う事で理解を得られるよう工夫し、加配職員と共に支援している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑧		<ul style="list-style-type: none"> ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○年2回の専門機関等の巡回訪問中、相談や助言を受けている。病院に付き添って医師から専門的助言をもらっている。</p> <p>○担当する加配の保育士が、連絡会議に出席し必要な知識や情報を得ている。</p> <p>○保護者と共に、見守り育てる取組を身振り手振りで伝えている。</p>
			⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○一日の流れが決まっていて、8時に全員が登園し「朝の運動遊び」を取り入れ、一日が計画的に行われている。</p> <p>○ゆったりと落ち着いて生活している様子が見られた。</p> <p>○インタビューでは、子どもの状況に合わせている。登園時の様子や目の動きで理解しようとしている。</p> <p>○子ども達の「やりたい」を引き出す遊びの環境が異年齢同士の自然な関わりにつながっている。散歩で異年齢のクラスと出かけることもある。</p> <p>○生活リズムに配慮した食事・おやつの提供を提供している。</p> <p>○保護者の連絡は園長にお願いしたり、延長担当者に伝えてもらっている。入口のホワイトボードに伝えてほしい内容を書いている。場合によりその日に電話をし対応している。</p> <p>○送迎時や週一回のお残りの時間に保護者と話す機会がある。連絡ノートで伝えることもある。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わり配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○年間計画に位置付けて、年3回幼保小連絡会の機会が設けられている。その内1回は小学校が来園し小学校との連携が図られている。</p> <p>○5歳児の年間計画の中で就学に向け、場面、状況、相手に応じた適切な言葉使いや、時間の見通しを知らせ、園での様子を細かく伝え共有している。</p> <p>○児童保育要録は関係する職員が参画し、適切に作成されている。殊に特記がある事項については記載し、小学校と連携を図っている。</p>
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○子どもの健康管理については、ソフトウェアを使い把握し、管理している。</p> <p>○軽度の場合は、お迎え時に、延長児は延長職員や中程度は担任が残って直接伝える。言葉の他に連絡帳に付箋を貼りメモでお知らせしている。</p> <p>○年間の保健計画が作成されており、保護者にも健康診断・歯科検診・発育測定等知らせている。</p> <p>○保育園入園のご案内に、「子どものかかりやすい病気」として健康状態についてインフルエンザ等の感染症のときの治癒証明書について記載されている。</p> <p>○保育中のけがや体調不良の時は、緊急時はすぐに保護者に連絡、様子を観察していた時はお迎えの際口頭で伝えている。</p> <p>○ソフトウェアで管理している。0歳児5分、1～2歳児は10分毎に記録している。方法は事故防止マニュアルに定められている。一部マニュアル記載の時間と異なっているが記録で管理している取組で良いと思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(3)	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ、保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○健康診断・歯科検診など年間計画に沿って実施し、医者からの結果は個別台帳に記載して保護者に渡している。発育測定は毎月実施して、保護者に知らせている。</p> <p>○昼食後の歯磨きを実施して、虫歯予防に努めており、子どもたちは、昼食が終わると歯磨きを済ませてから遊んでいた。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○配慮が必要な場合は子どもに合わせる対応をしている。食物アレルギー対応の子どもはないが「小諸市立保育所給食調理業務委託事業」の中で「小諸市給食業務マニュアル」、「食物アレルギー対応マニュアル」や「アレルギー対応食確認表」等により管理している。</p> <p>○慢性疾患等のある子どもについては、医師からの指示に従った対応を行っている。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 	<p>○年間を通じて、各年齢ごとに指導計画書に記載し、食に関するさまざまな経験ができるよう工夫している。</p> <p>○玄関ロビーを入ると、ガラス戸の向こうに調理室が見え、子どもの食事への期待が自然と生まれる。調理が外部委託になったが調理員は変わらず安心できる。みんなで向かい合って食べていた。</p> <p>○栄養士が子どもの発達に合わせた献立を作成している。主食はごはん、丸パン、食パン、米粉パン等となっている。</p> <p>○お弁当、パン敷き、水筒を保護者が用意できるよう「入園のご案内」で説明している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(4)	①		<ul style="list-style-type: none"> ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○毎日、クラス単位に順番で評価をし量などの調整をしている。</p> <p>○配膳の時、食べられる量を聞きながら盛り付けしていた。野菜の量が人によりまちまちで、苦手な子どもには量を調整している。</p> <p>○近くの畑で野菜を作っており関心を高める取組をしている。「おこめまる」によるお米がいろいろな食べ物に変身することを教えてもらっている。</p> <p>○食育については、「梅花のはなびら」のプロジェクトで「楽しくおいしく食べて生きる力を育てよう」として周知し家庭と連携している。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○栄養士の献立は毎月給食会議により工夫されている。地域特産の農産物等についてはグリーンロード直売所から野菜、りんご、玉ねぎ、ジャガイモを仕入れ、配慮している。利用者調査では食事の満足度は高い。</p> <p>○検食者が分量、味付け、色どりを評価し残食状況を記録に残し、献立・調理の工夫に反映させている。</p> <p>○衛生管理についてはマニュアルを定め、大量調理衛生管理基準に準じた委託業者の業務を小諸市が定期的にチェックしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○連絡ノートは必要な時に書いている。登降園時に情報交換する。ポータルサイトを利用したソフトウェアでお知らせしている。おたよりを見ない保護者には声がけや連絡帳に付箋を貼り、見てもらえるようにしている。</p> <p>○園だよりやクラスだよりで伝えている。世代間交流や壁の穴参観、フリー参観、幼児フリー参観、親子ラリー等様々な機会を設け、保護者と子どもの成長を共に共有できるよう支援している。</p> <p>○家庭の状況、保護者との情報交換等についてソフトウェアを利用し、必要に応じ記録している。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○園のお迎え時にコミュニケーションを取っている。ケガをしたときには画像を送ったり電話連絡をすることになっている。事態によっては担任が延長時間まで残って伝えている。</p> <p>○個別懇談が年度計画され、必要に応じ個別に相談している。また土曜日を開園し、保護者への支援を行っている。</p> <p>○各クラスの年間計画でクラス毎に家庭との連携を丁寧に計画し、保護者会での園運営やクラス方針を伝え家庭と園の様子を伝えることで信頼関係を築いている。</p> <p>○相談内容についてはソフトウェアを利用し必要に応じ記録している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2	(2)	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応では、厚生労働省の「子ども虐待対応の手引き」に準じている。</p> <p>○家庭状況の変化の把握に努め、子どもの表情や様子に注意を払っている。また、発育測定時には身体の様子や発育状況を確認しており、疑いや気になる点がある場合は、園長に報告し、児童相談所等の関係機関につなげることになっている。</p> <p>○マニュアルは厚生労働省の「子ども虐待対応の手引き」に準じているが、小諸市若しくは南保育園として整備し、職員研修を実施することを期待する。</p>
					<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○保育計画については年間指導計画、月指導計画、週案は年齢別に作成し、月指導計画と週案は「評価・反省」で振り返っている。</p> <p>○正規職員は人事評価の中で自己評価を定期的実施している。非正規職員は人事評価としての自己評価はされていないが面談で確認することになっている。</p> <p>○個人レベルの保育士等の自己評価を保育の改善や専門性の向上につなげている。</p> <p>○保育所全体の自己評価では、こども家庭庁のホームページに掲載されている「保育所における自己評価ガイドライン」を参考に自己評価の公表を含め取組について保育所全体の評価プロセスの記録を残すことを期待する。</p>
	3	(1)	保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	b)		